

第132号  
2021.11 発行

# 総研大 NEWSLETTER



## トピックス

- ◆ 2021 年度秋季学位記授与式
- ◆ 第7回 SOKENDAI 賞の表彰
- ◆ 2021 年度秋季入学式
- ◆ 2021 年度後学期フレッシュマンコース 実施報告
- ◆ 日本文学研究専攻 「日本を研究対象とする学生のための英語講習会」開催
- ◆ 日本文学研究専攻 2021 年度オープンキャンパス（入試説明会）オンラインで開催
- ◆ 天文科学専攻 国立天文台・総合研究大学院大学サマースチューデントプログラム開催

## 受賞情報

## プレスリリース情報

## 研究助成学生の研究紹介

## メディア等出演・掲載情報

## イベント情報



## 2021 年度秋季学位記授与式

2021年9月28日(火)、葉山キャンパス講堂にてリモートによる秋季学位記授与式が挙行されました。

式典では修了生を代表して、葉山キャンパスより参加した生命共生体進化学専攻の修了生1名に、学長より学位記が授与されました。その後、学長からの式辞及び修了生代表からの謝辞が述べられ、課程博士26名、論文博士2名が総研大での博士号を手を、将来への新たな一歩を踏み出しました。

<https://www.soken.ac.jp/news/7132/>



記念写真撮影

(左から、杓掛先導科学研究科長、永田理事、長谷川学長、渡辺理事、小川理事、先導科学研究科修了生・清古貴さん。背面は、ZOOMにて参加いただいた修了生)

【広報社会連携係】



## 第7回 SOKENDAI 賞の表彰

2021年9月28日(火)、学位記授与式に引き続き、第7回 SOKENDAI 賞受賞者3名の表彰が、リモートにて挙行されました。受賞者のコメントは、以下に Web サイトに掲載されていますのでご覧ください。

※ SOKENDAI 賞は、本学の理念と目的に照らして、特段に顕彰するに相応しい研究活動を行い、その成果を優れた学位論文にまとめて課程

を修了し、学位を取得した修了生を表彰する賞として2018年度に創設されました。

<https://www.soken.ac.jp/news/7130/index.html>



【広報社会連携係】

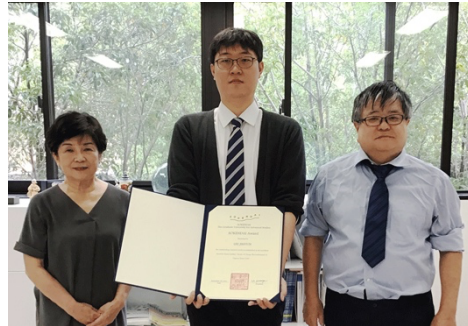
### 第7回 SOKENDAI 賞受賞者

氏名	所属(申請時)	学位論文題目
単荷君	文化科学研究科 国際日本研究専攻	近代青島の都市空間の変容 －日本的要素の連続と断絶を中心に
LEE JIHYUN	物理科学研究科 機能分子科学専攻	有機太陽電池における電荷再結合の研究

RAMNARONG WANISON	高エネルギー加速器科学研究科 加速器科学専攻	伝導冷却超伝導磁石への応用を目指した極低温 パラレルヒートパイプシステムの研究
----------------------	---------------------------	--



受賞者・単荷君さん



川合専攻長（左）、受賞者・LEE  
JIHYUN さん（中央）、主任指導教  
員・平本教授（右）



主任指導教員・仲井教授（左）受賞者・  
RAMNARONG WANISON さん（右）、  
受賞論文指導教員・木村准教授 [現東京大  
学]（右上）



10/5

## 2021 年度秋季入学式



2021年10月5日（火）、2021年度秋季入学式を葉山キャンパス講堂よりオンラインで実施しました。新入生26名が基盤機関や自宅から参加しました。入学許可者一人ひとりのお名前を読み上げ歓迎しました。

<https://www.soken.ac.jp/news/7139/>



【広報社会連携係】



10/5-  
8

## 2021 年度後学期フレッシュマンコース実施報告

2021年度後学期フレッシュマンコース(英語)を、10月5日～8日にオンラインにて開催しました。フレッシュマンコースは、「研究者を目指すすべての人が身につけるべき技術・考えるべき問題を学ぶ」「総研大ならではの知的広がりに触れる中で、異なる分野の人とのつながりを築く」ことを目的とし、新入生を主な対象として集中講義で実施しています。

初日の”Exploring Diversity in Academia”では、研究科長による「研究サイクル」に関するパネルディスカッションと在学生（フレッシュマンコース学生企画委員）による自身の研究を紹介するプレゼンテーションを行いました。2～3日目の“Researchers and Society”では、講義とワークショップ形式での授業を行いました。そのうち”Social History of Research”はオンデマンド講義として実施しまし

た。最終日の”Communication Skills for Researchers”では、英語での論文発表および学会発表を想定したライティングとプレゼンテーションの講義を行いました。

実施に際しては、受講者専用ウェブサイトを立て、授業の内容や課題の提出について情報共有を行いました。また、「研究者としての自分を表現する画像」を用いた参加者リストページを作成し、画面の向こう側にいる参加者の人となりや想像しやすくするとともに、オンライン上での交流スペースを設けることで受講者同士の交流の機会を提供しました。

今回は留学生を中心に 30 名の受講がありました。授業後のアンケートでは、全員より「FC を受講して良かった」「研究者として役に立つ」という回答がありました。「それぞれの授業に満足した」「研究者になるためのブートキャンプのようで楽しかった」「可能であれば対面の方が良いが、オンラインでも楽しく学ぶことができた」という声もあり、好評でした。授業中のグループワークやディスカッションにおいても洞察に富んだ意見が活発に交



フレッシュマンコース専用ウェブサイト

わされ、参加者の皆さんが深く学んでいる様子が伝わってきました。

フレッシュマンコースは、専攻を超えた学生が集まる数少ない機会です。今後の実施形態については状況次第ですが、オンライン開催であってもオンラインでのメリットを活かした講義となるよう、今後も改善につとめます。

【教育開発センター】



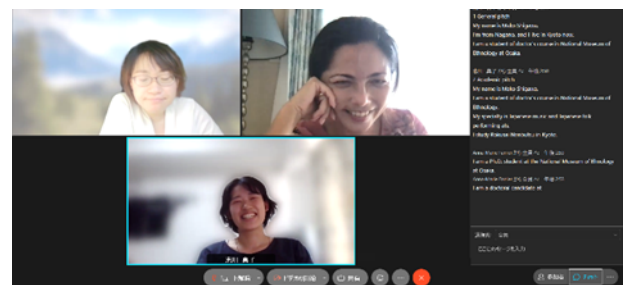
## 日本文学研究専攻 「日本を研究対象とする学生のための英語講習会」 開催

9月21日（火）、日本文学研究専攻では「日本を研究対象とする学生のための英語講習会」（以下「英語講習会」）をオンラインで開催しました。

この英語講習会は、日頃英語から離れている学生に英語感覚を取り戻してもらい、各自の研究内容に関する英語表現を身につけてもらうことをねらいとして開催しています。講師には、日本文学研究者でもあり、翻訳・通訳者等としてご活躍中のファリア・アンナマリエ氏（Ph.D.）をお迎えしています。

受講生は学会など学術的な場面で用いる英語表現を学び、それらを用いて各自の研究紹介文作成に取り組みました。受講生と講師双方が、オンライン会議システムのチャット機能に英文を書き込みながら発言するなど、対面開催の場合の板書や添削に代わる方法を用いながら活発にコミュニケーションをとる様子が見られました。

この英語講習会は第1期と第2期に分け、全6日間、合計12コマで開催しており、文化科学研究科



講師である、ファリア・アンナマリエ氏（Ph.D.）から英語表現についてアドバイスを受ける受講者

の他専攻からも受講生を受け入れています。第1期は11月に終了し、2022年1月から第2期を開催予定です。受講生は最終回でのプレゼンテーションに向けて、引き続き英文要旨の作成と発表練習に取り組めます。

【日本文学研究専攻】



## 日本文学研究専攻 2021年度オープンキャンパス（入試説明会） オンラインで開催

10月2日（土）、日本文学研究専攻ではオープンキャンパス（入試説明会）をオンラインで開催しました。他大学の修士課程に在籍する学生や、仕事を続けながら博士課程への進学を検討中の社会人などの参加がありました。

参加者は専攻の特色や入試について説明を受けた後、海野（うんの）圭介教授、入口敦志教授、山本嘉孝（よしたか）准教授による研究紹介を聴講し、国文学研究資料館を基盤機関とする当専攻ならではの幅広い研究分野と、膨大な原典資料から情報を収集していく「もの」に即した研究方法の一端にふれました。教員との個別相談では、研究の進め方やより研究を深めるための視点、入学後の研究指導について、熱心に耳を傾けていました。



海野教授による研究紹介

参加者の皆様には、今後の研究の進め方や進学後のイメージをより明確なものにさせていただけたことと思います。【日本文学研究専攻】



## 天文科学専攻 国立天文台・総合研究大学院大学サマーステュー デントプログラム開催

国立天文台・総合研究大学院大学サマーステューデントプログラム、いわゆる夏休み期間の体験研究が実施されました。今年で11年目になります。このプログラムは、大学2年または3年に在学する学生が国立天文台に滞在し、受入教員の指導のもとで研究を行うことができる制度です。天文学に興味を強く持ち、意欲のある大学学部生に体験研究の機会を設けることで、将来研究を志す人材を育成することを目的としています。実際、このプログラムの修了生が国立天文台の総研大に入学し、研究者として活躍している例もあります。昨年度同様、COVID-19感染拡大防止のため、オンライン中心で実施しました。開催期間を8月～9月の2ヶ月間とし、その期間中、柔軟な指導ができるように工夫をしました。天文学の研究から装置開発まで非常に幅広い分野の教員19名がサマーステューデントプログラムに参画していただきました。教員には研究指導内容のシラバスを提出してもらい、それをもとにして学生が希望する研究を選ぶことができます。今



オンライン交流会の様子

年は41名の学生の応募があり、26名の学生を選抜しました。東北から九州まで様々な大学から、ジェンダーバランスのとれた多彩な顔ぶれでした。英語の文献や教科書を読んだり、データ解析用のソフトウェアの使い方を習得して実際にデータを解析したり、数値シミュレーションを実際に行ったり、観測装置開発に必要なCADの作成やモデル計算をしたり、大学の講義ではあまり触れない内容を経験することができました。参加者が一同に集まって研究成

果発表会を実施することはできませんでしたが、各テーマに別れたオンライン成果発表会やオンライン交流会を行いました。参加学生も受入教員にとっても有意義な夏休みとなりましたが、来年こそはオンラインサイトで開催したいものです。

【物理科学研究科 早野裕（国立天文台ハワイ観測所）、伊王野大介（国立天文台アルマプロジェクト）、大村優美子（国立天文台研究推進課大学院係）】

## Awards

### ■ 2021 年度文化功労者に本学関係者 3 名が選出

10月27日（水）に、2021年度文化功労者が発表され、以下本学関係者3名が選出されました。

所属・役職	氏名	関連ページ
国立民族学博物館 元館長 総合研究大学院大学 名誉教授	石毛直道	国立民族学博物館のページ <a href="https://www.minpaku.ac.jp/post-staff/26458">https://www.minpaku.ac.jp/post-staff/26458</a>
分子科学研究所 所長	川合真紀	分子科学研究所のページ <a href="https://www.ims.ac.jp/news/2021/10/202110.html/">https://www.ims.ac.jp/news/2021/10/202110.html/</a>
高エネルギー加速器研究機構 元機構長	鈴木厚人	高エネルギー加速器研究機構のページ <a href="https://www.kek.jp/ja/topics/202110280920/">https://www.kek.jp/ja/topics/202110280920/</a>

### ■ 構造分子科学専攻 小坂谷貴典 助教 2021 年度日本表面真空学会誌賞を受賞

物理科学研究科構造分子科学専攻（分子科学研究所、物質分子科学研究領域）の小坂谷貴典助教が2021年度日本表面真空学会、会誌賞を受賞しました。

【受賞論文】Surface Chemistry of Carbon Dioxide on Copper Model Catalysts Studied by Ambient-Pressure X-ray Photoelectron Spectroscopy (Review Paper)

[https://www.ims.ac.jp/news/2021/08/2021\\_2.html](https://www.ims.ac.jp/news/2021/08/2021_2.html)



### ■ 機能分子科学専攻 平本昌宏 教授 応用物理学会有機分子・バイオエレクトロニクス分科会業績賞を受賞

物理科学研究科機能分子科学専攻（分子科学研究所、物質分子科学研究領域）の平本昌宏教授が応用物理学会有機分子・バイオエレクトロニクス分科会業績賞（M&BE業績賞）を受賞し、「M&BEの仲間と出会った頃-30年前」と題した記念講演を、9月12日に第82回応用物理学会秋季学術講演会で行いました。本賞は有機分子エレクトロニクスおよび

バイオエレクトロニクス分野の発展に顕著な業績をあげた研究者に対して、応用物理学会有機分子・バイオエレクトロニクス分科会から授与されるものです。

[https://www.ims.ac.jp/news/2021/09/post\\_357.html](https://www.ims.ac.jp/news/2021/09/post_357.html)



## ■ 遺伝学専攻 飯田史織さん 第 61 回生物物理若手の会 学生優秀発表賞を受賞

遺伝学専攻の飯田史織（総研大遺伝学専攻 D2・ゲノムダイナミクス研究室）が、9月7日～9月10日にオンラインで開催された、第61回生物物理若手の会・夏の学校でポスター発表をおこない、学生優秀発表賞を受賞しました。

[https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2021/10/information\\_ja/ha\\_20211025s.html](https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2021/10/information_ja/ha_20211025s.html)



## ■ 構造分子科学専攻 石崎章仁 教授 2021 年度量子生命科学会研究奨励賞を受賞

物理科学研究科構造分子科学専攻（分子科学研究所、理論・計算分子科学研究領域）の石崎章仁教授が「量子開放系の動的過程を記述するための基礎理論の構築と光励起生体反応系におけるエネルギー輸送および変換過程の解明」の業績で2021年度量子生命科学会研究奨励賞を受賞しました。本賞は量子

生命科学に関連する研究において顕著な業績を挙げた45歳以下の研究者に授与されます。

<https://www.ims.ac.jp/news/2021/09/0909.html>



## ■ 機能分子科学専攻 平義隆 准教授 第 64 回放射線化学討論会優秀賞を受賞

物理科学研究科機能分子科学専攻（分子科学研究所、極端紫外光研究施設）の平義隆准教授が第64回放射線化学討論会での「UVSOR-IIIにおけるガンマ線誘起陽電子消滅分光法の開発」の講演について、第64回放射線化学討論会 優秀賞を受賞しました。

[https://www.ims.ac.jp/news/2021/09/64\\_1.html](https://www.ims.ac.jp/news/2021/09/64_1.html)



## ■ 物質構造科学専攻 原野貴幸さん（修了生）・木村正雄教授が、日本鉄銅協会 2021 年論文賞 澤村論文賞を受賞

9月22日、日本鉄銅協会より発表された、2021年論文賞澤村論文賞に、物質構造科学専攻の原野貴幸（修了生）さんと、木村正雄教授を含むチームが受賞しました。

Phases in Iron Sintered Ores through the Correction of Micro-absorption Effects

<https://www.isij.or.jp/news/news2021/20210927.html>

【受賞論文】 Accuracy Improvement of the XRD-Rietveld Method for the Quantification of Crystalline



## ■ 核融合科学専攻 小林達哉助教 2021 IUPAP Young Scientist Award in Plasma Physics 受賞

2021年10月7日、核融合科学専攻小林達哉助教が、“2021 IUPAP Young Scientist Award in Plasma Physics”を受賞しました。この賞は、国際純粋・応



用物理学連合(The International Union of Pure and Applied Physics)より、特筆すべき成果を残した若手物理学者に対して授与されるものです。

【受賞コメント】

栄誉ある賞を賜り、誠に光栄です。多くの方々のご指導・ご鞭撻に感謝いたします。プラズマ乱流物理

はとても魅力的でチャレンジしがいのある分野です。これからも研究に邁進していく所存です。

<https://www.nifs.ac.jp/news/award/211008.html>



■ 先導科学研究科 JSPS 特別研究員 佐藤駿さん 日本魚類学会学会賞 (奨励賞) 受賞



先導科学研究科査掛研究グループ特別研究員の佐藤駿さんが、9月18日(土)に開催された2021年度日本魚類学会年会(ウェブ大会)において日本魚類学会の学会賞(奨励賞)を受賞しました。

【受賞コメント】

長年行ってきたカワスズメ科魚類の行動研究を評価して頂きました。今後とも、カワスズメ科魚類をモデルとして、興味深い魚類の生態や行動について明らかにしていく予定です。

<https://www.soken.ac.jp/news/7135/>

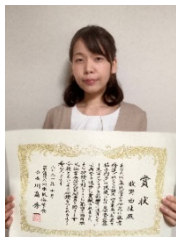


■ 日本歴史研究専攻 牧野由佳さん 日本民俗学会研究奨励賞を受賞

日本歴史研究専攻2年の牧野由佳さんが、第41回(2021年度)日本民俗学会研究奨励賞及び福崎町賞を受賞し、10月9日(土)の日本民俗学会年会にて授賞式が行われました。

福崎町賞は、柳田國男の生誕地である兵庫県神崎郡福崎町から副賞として贈られる賞で、受賞者は翌年度、福崎町で講演会を行う予定です。

【受賞論文】「知多半島『朝倉の梯子獅子』の戦後における伝承の変容—文字メディアの影響に注目して—」(『民俗芸能研究』第69号, 2020年9月, 民俗芸能学会)



【受賞コメント】

この度は、栄誉ある賞をいただき、大変嬉しく感じています。今回の成果は、日頃から親身にご指導頂いている指導教員の松尾恒一先生や、内田順子先生、調査にご協力頂いている「朝倉の梯子獅子」関係者の皆様をはじめ、多くの方からのお力添えがあったからこそ得られたものと、感謝しております。今後も、日本列島における梯子獅子の伝播や、地域における梯子獅子の伝承の意義の解明を目指し、より一層の精進を重ねてまいります。

<https://www.soken.ac.jp/news/7159/>



■ 加速器科学専攻 大谷将士助教 AAPPS C.N. Yang 賞 受賞

加速器科学専攻の大谷将士助教が、ミュオン線型加速器の開発と世界初のミュオン加速の実現が評価され、アジア太平洋物理学会連合(AAPPS) C.N. Yang 賞を受賞しました。

【受賞コメント】

この度、世界初のミュオン加速に成功し CN Yang 賞を頂戴しました。本技術に立脚し、ミュオンをほぼ光速度まで加速する加速器の実現に着手しています。これによって、素粒子物理学の喫緊の課題とな

っているミュオンの g-2 問題に決着をつけ、究極の素粒子像に迫ります。本研究室では総研大をはじめ様々な大学の大学院生が研究開発を主導しています。ご興味があれば是非ご連絡ください。

<https://www.soken.ac.jp/news/7157/>





## ■ 遺伝学専攻 細木拓也さん 公益財団法人河川財団 優秀成果 受賞

遺伝学専攻、生態遺伝学研究室の細木拓也さんが、河川財団から受けた助成「町指定天然記念物イトヨが生息する湧水河川・湖沼における震災復興工場の影響と保全事業の効果」の成果に対して、「優秀成果表彰」を授与されることとなりました。2020年

度助成を受けた研究者の中から、他者の模範となる素晴らしい研究活動を行った研究者へ授与されるものです。11月4日（木）に表彰式と記念講演が開催されます。

[https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2021/10/information\\_ja/ha20211020.html](https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2021/10/information_ja/ha20211020.html)



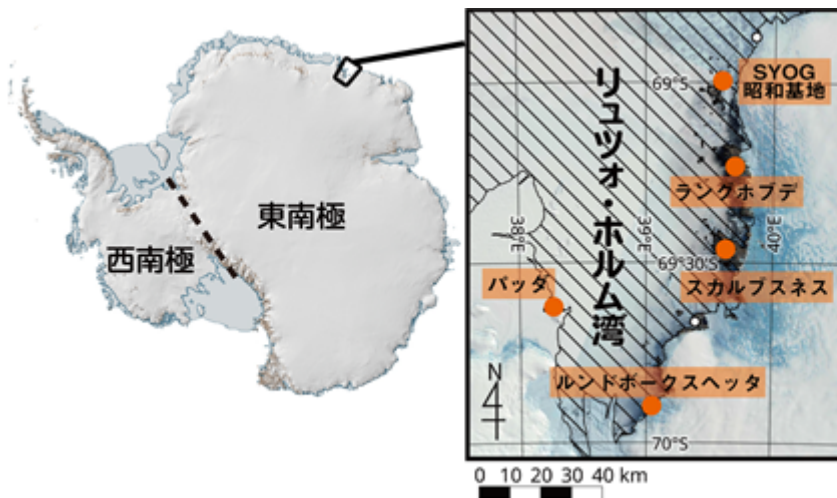
## Press Release

2021.09.09

### 東南極リュツォ・ホルム湾沿岸での GNSS 観測と地殻変動の検出

服部晃久<sup>1</sup>, 青山雄一<sup>1,2</sup>, 奥野淳一<sup>1,2</sup> 土井浩一郎<sup>1,2</sup>

<sup>1</sup>総合研究大学院大学, <sup>2</sup>国立極地研究所



本研究の対象地域とリュツォ・ホルム湾沿岸露岩 GNSS 観測点の位置

#### 【研究概要】

本研究では、日本の南極地域観測事業によって実施された東南極リュツォ・ホルム湾沿岸での GNSS (Global Navigation Satellite System) 観測のデータ解析から、当地域の現在の地殻変動を明らかにしました。これに加えて、当地域は近年の衛星重力観測や衛星高度計観測の結果から積雪が増加していると考えられるため、積雪が荷重となって引き起こす短期的な変形を補正することで、長期的な地殻変動の大きさを評価しました。その結果、現在この地域は全体的に隆起の傾向にあること、また南側の地域は

どより速く隆起するという空間的特徴が明らかになりました。南極氷床は約 2 万年前には現在より大きく発達していたと考えられ、その後、数千年スケールで生じた氷床融解によって、今もなお地殻変動が継続していることが予測されています (氷河性地殻均衡)。本研究結果は南極氷床の融解史、および地球の内部構造の理解に貢献する重要なデータとなります。

#### 【論文情報】

- ・ 掲載誌：Geophysical Research Letters

- 論文タイトル：GNSS Observations of GIA-Induced Crustal Deformation in Lützow-Holm Bay, East Antarctica
- 著者：服部晃久（総合研究大学院大学複合科学研究科極域科学専攻）青山雄一（国立極地研究所 地圏研究グループ 准教授／総合研究大学院大学複合科学研究科極域科学専攻 准教授）奥野淳一（国立極地研究所 地圏研究グループ 助

教／総合研究大学院大学複合科学研究科極域科学専攻 助教）土井浩一郎（国立極地研究所 地圏研究グループ 准教授／総合研究大学院大学複合科学研究科極域科学専攻 准教授）

DOI: <https://doi.org/10.1029/2021GL093479>

【詳細はこちら】

<https://www.soken.ac.jp/news/7113/>



2021.09.21

## 江戸時代の人骨から口腔内細菌叢を解析—歯石 DNA から江戸時代の口腔内細菌群を特定—

芝多佳彦<sup>1</sup>、駒津匡二<sup>1</sup>、須藤毅頭<sup>1</sup>、澤藤りかい<sup>2</sup>、小林宏明<sup>1</sup>、岩田隆<sup>1</sup>

<sup>1</sup>東京医科歯科大学, <sup>2</sup>総合研究大学院大学

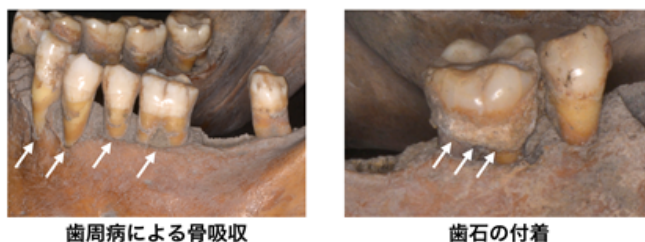


図 1.江戸時代の人骨と付着した歯石

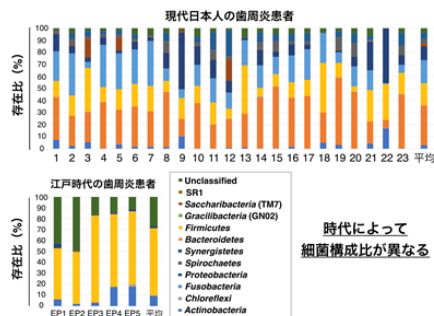


図 2. 江戸時代と現代の細菌叢の比較

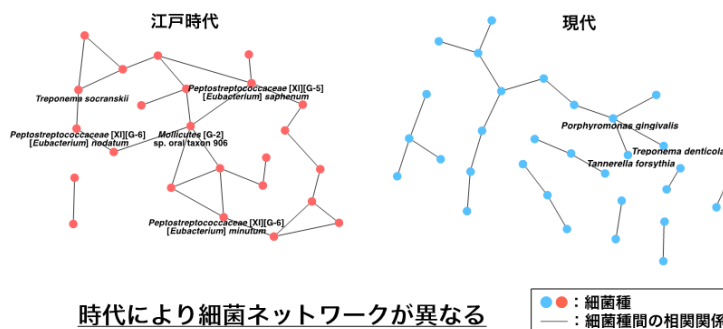


図 3. 江戸時代と現代の細菌ネットワーク構造の比較

### 【研究概要】

本研究グループは、深川(現東京)から発掘された江戸時代後期のヒト(町人)12個体の古人骨と付着していた歯石から抽出した細菌のDNAから当時の口腔疾患罹患状況と口腔内の細菌組成の評価を行いました。マイクロコンピュータ断層撮影法を用いた歯周病診断により約4割を超える個体に歯周病が

原因と推察される歯槽骨吸収を認め、歯周病に罹患していたことがわかりました(図1)。

さらに古人骨に付着した歯石から抽出されたDNAを対象にメタ16S解析法\*2を用いた細菌叢解析を行ない、現代日本人の歯垢における細菌叢と比較し、時代間の口腔内の細菌組成の変化を検討しました。その結果、11系統の細菌門が江戸時代と現

代日本人のサンプルから共通して検出された一方、Fusobacteria 門、SR1 門、Gracilibacteria (GN02) 門は現代日本人の歯垢でのみ検出されました (図 2)。

また興味深いことに、歯周炎の代表的な病原菌であるレッドコンプレックス\*3 (Porphyromonas gingivalis, Tannerella forsythia, Treponema denticola) は、現代日本人の歯垢から多く検出される一方で、江戸時代の歯石からは検出されないことがわかりました。続けて細菌種間の相関関係をネットワーク解析\*4 により調べたところ、江戸時代と現代では細菌種同士の関係性が異なり、特に Eubacterium 属、Mollicutes 属、Treponema socranskii といった細菌が江戸時代の歯周病細菌ネットワークで特徴的に重要となる細菌であった可能性が示唆されました (図 3)。

#### 【論文情報】

- 掲載誌：Frontiers in Cellular and Infection Microbiology
- 論文タイトル：Comparison of periodontal bacteria of Edo and modern periods using novel

diagnostic approach for periodontitis with micro-CT

- 著者：芝 多佳彦 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯周病学分野 助教) 駒津 匡二 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科生涯口腔保健衛生学分野 医員) 須藤 毅頭 (東京医科歯科大学統合教育機構 特任助教) 澤藤 りかい (総合研究大学院大学 先導科学研究科 日本学術振興会特別研究員) 小林 宏明 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯周病学分野 臨床教授) 岩田 隆紀 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯周病学分野 主任教授)

#### 【詳細はこちら】

<https://www.soken.ac.jp/news/7118/>



## 研究助成学生の研究紹介

SOKENDAI 研究派遣プログラム、研究論文助成事業に採択された学生の研究概要を順次本学ホームページに紹介しています。

<https://www.soken.ac.jp/education/rintro/ri-grantedstd/>



#### ■新規掲載情報

事業種別	専攻・氏名	タイトル
研究論文助成	天文科学専攻 柏木頼我	負の温度勾配がフィラメント状分子雲の平衡状態に及ぼす影響
研究論文助成	機能分子科学専攻 Palassery Ithikkal Jaseela	Lateral organic solar cell with centimeter long lateral junction
研究論文助成	情報学専攻 Li Haoyu	Using Deep Neural Networks for Increasing Speech Intelligibility in Noisy Environment
研究論文助成	基礎生物学専攻 大熊直生	マメの根における土壌細菌との共生を制御する葉由来のマイクロ RNA

## ■ NHK BS プレミアム

【記事タイトル】 HUMANIENCE 40年のたぐらみ 第12回「肝臓 毒と戦う勇者」

【掲載】 生命共生体進化学専攻 颯田葉子 教授

【日時】 2021年7月8日(木)

(参考) <https://www.nhk.jp/p/ts/X4VK5R2LR1/episode/te/KV97VVWR53/>

## ■ 京都新聞 朝刊

【記事タイトル】 日本人の忘れもの知恵会議にて、古典芸能 ルーツと未来

【掲載】 比較文化学専攻 廣瀬浩二郎 准教授

【日時】 2021年8月3日(火)

(参考) [https://pr.kyoto-np.jp/campaign/nwc\\_wise/conversation/conv\\_2108.html](https://pr.kyoto-np.jp/campaign/nwc_wise/conversation/conv_2108.html)

## ■ NHK オンライン

【記事タイトル】 ETV 特集「日本の原爆開発 ～未公開書簡が明かす仁科芳雄の軌跡～」

【掲載】 生命共生体進化学専攻 伊藤憲二 准教授

【日時】 2021年8月7日(土)

(参考) <https://www.nhk.jp/p/etv21c/ts/M2ZWLQ6RQP/episode/te/JZW13Z1YV8/>

## ■ ACROSS THE SKY(J-WAVE)

【記事タイトル】 著書からモンゴルのヒップホップカルチャー、ユースカルチャーなどを、ナビゲーターのSKY-HIが伺う。

【掲載】 地域文化学専攻 島村一平 准教授

【日時】 2021年8月8日(日)

(参考) <https://www.j-wave.co.jp/original/acrossthesky/>

## ■ 産経新聞 夕刊

【記事タイトル】 廣瀬准教授について、3回にわたり紹介

【掲載】 比較文化学専攻 廣瀬浩二郎 准教授

【日時】 2021年8月30日(月)、31日(火)、9月1日(水)

## ■ 読売新聞 夕刊

【記事タイトル】 吉岡先生の新著について 現代の日本語多角的に考察

【掲載】 比較文化学専攻 吉岡乾 准教授

【日時】 2021年9月2日(木)

## ■ 京都新聞 朝刊

【記事タイトル】 日本人の忘れもの知恵会議にて、見えないものをみるために

【掲載】 比較文化学専攻 廣瀬浩二郎 准教授

【日時】 2021年9月7日(火)

(参考) [https://pr.kyoto-np.jp/campaign/nwc\\_wise/conversation/conv\\_2109.html](https://pr.kyoto-np.jp/campaign/nwc_wise/conversation/conv_2109.html)

## ■ 静岡新聞

【記事タイトル】 児童生徒に端末 ネットの功罪、熟慮を

【掲載】 総合研究大学院大学 長谷川真理子 学長

【日時】 2021年10月10日(日)

## ■ NHK ラジオワイド

【記事タイトル】 特別展の紹介と、廣瀬先生のインタビュー

【掲載】 比較文化学専攻 廣瀬浩二郎 准教授

【日時】 2021年10月21日(木)

(参考) <https://www4.nhk.or.jp/P2855/>

## ■ NHK スペシャル

【記事タイトル】 シリーズ ジェンダーサイエンス 第2回 月経 タブーを超えて

【掲載】 生命共生体進化学専攻 大槻久 准教授

【日時】 2021年11月6日(土)

(参考) <https://www6.nhk.or.jp/nhkpr/post/original.html?i=31236>

# Event Calendar

日程	イベント名称	実施専攻・基盤機関
2021/9/2 - 11/30	特別展「ユニバーサル・ミュージアム ―― さわる!“触”の大博覧会」 <a href="https://www.minpaku.ac.jp/ai1ec_event/16854">https://www.minpaku.ac.jp/ai1ec_event/16854</a>	国立民族学博物館
2021/10/28 - 2022/01/25	企画展「躍動するインド世界の布」 <a href="https://www.minpaku.ac.jp/ai1ec_event/19274">https://www.minpaku.ac.jp/ai1ec_event/19274</a>	国立民族学博物館
2021/11/13	後期専攻説明会 ※オンライン開催 <a href="http://www.esb.soken.ac.jp/admissions/briefing_detail.html">http://www.esb.soken.ac.jp/admissions/briefing_detail.html</a>	生命共生体進化学専攻
2021/11/26	中間報告論文研究発表会	日本文学研究専攻
2021/11/27	核融合科学研究所 市民学術講演会 ※オンライン開催 <a href="https://www.nifs.ac.jp/shiminkouen/2021/">https://www.nifs.ac.jp/shiminkouen/2021/</a>	核融合科学専攻 核融合科学研究所
2021/12/3	130 回分子科学フォーラム 「人工光合成への挑戦 ～空気や水から価値ある分子を～」 <a href="https://www.ims.ac.jp/research/seminar/2021/08/27_5149.html">https://www.ims.ac.jp/research/seminar/2021/08/27_5149.html</a>	分子科学研究所
2021/12/4 - 12/5	総研大文化フォーラム 2021 「あそびを多角的に見つめる」 ※オンライン開催 <a href="https://www.soken.ac.jp/event/7066/">https://www.soken.ac.jp/event/7066/</a>	文化科学研究科

2022/1/28	131 回分子科学フォーラム 「ウエルビーイング経営の本質 ～データが明かす新たな人・組織・社会と幸せ～」 (Web サイト準備中)	分子科学研究所
2022/2/3	総研大アジア冬の学校 <a href="https://www.ims.ac.jp/aws21/index.html">https://www.ims.ac.jp/aws21/index.html</a> ※近日公開予定	分子科学研究所

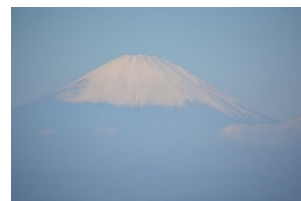
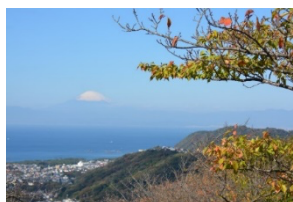
※原則として、総研大専攻としての行事のみを掲載します。

## ■ 編集後記

季節は進み葉山キャンパスの周りの木々も少しずつ葉の色が変わってきました。遠くに望む富士山も中腹まで雪化粧し美しさが増してきました。

今秋の学位記授与式や入学式も新型コロナウイルス感染症対策のためリモート開催となりましたが、来年は、この景色を学生の皆様に直接見てもらえる環境になっていること願うばかりです。

(広報社会連携係 T.S.)



## 総研大基金によるご支援について

令和2年度4月、本学は戦略的な運営を支える財政基盤を強化すべく、総研大基金を創設しました。この基金を活用して、国際交流の支援、学生支援等を推進して参ります。ぜひ皆様のご支援をお願いいたします。

【詳細はこちら】

<https://www.soken.ac.jp/donation/>



広報社会連携係では、メディアを通じて総研大の研究成果を広く社会に発信しています。特に、総研大在学生在が筆頭著者として研究論文を出版する際、プレスリリースを行う場合は、総研大と所属専攻(基盤機関)との共同プレスリリースを行っておりますので、是非総研大広報社会連携係までご連絡ください。

各専攻の学生・担当教員の「メディア出演」、「受賞・表彰」および「地域社会と連携・密着したアウトリーチ活動等の社会連携・貢献活動」についてニュースレター、ウェブ掲載等により発信しておりますので、各種情報を是非お寄せください。

研究論文を投稿する場合や、メディア等に出演される場合は、「総合研究大学院大学」と表記いただきますよう、総研大の知名度向上にご協力をお願いいたします。

2021年11月発行

編集・発行

国立大学法人 総合研究大学院大学

総合企画課広報社会連携係

神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村)

TEL 046-858-1629

FAX 046-858-1648

Email kouhou1(at)ml.soken.ac.jp

※(at)は@に変換してください。

©2021 SOKENDAI